

令和7年度 自己評価表

中長期目標	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをおとして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	１．学力の向上 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と進路実現 ４．学校業務改善への取り組み
-------	--	----------	--

評価基準　A：十分達成〔100％〕　B：概ね達成〔80％程度〕　C：変化の兆し〔60％程度〕　D：まだ不十分〔40％程度〕　E：目標・方策の見直し〔30％以下〕

				年 度 当 初		中間評価（9月）				
評価項目		評価の具体項目		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策		経過・達成状況	評価	改善方策
1	学力の向上	①	授業改革と学力の向上	○ 各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が90％ ○ 授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が80％ ○ 授業等におけるSTEAMLabの活用や公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる ○ 基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている	○ 「私は授業に満足している」とする生徒の割合が90％以上を維持している ○ 「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○ 鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる ○ 基礎力診断テストの評価が向上している生徒が増加している	○ 授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○ 教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○ STEAMLabを積極的に活用しながら、その成果を各教科で共有し、応用・実践する ○ 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする	○ 7月の授業評価アンケートの結果を踏まえ、各教科で授業の内容や手法の工夫改善に努めている ○ ICT活用は多くの授業で積極的に取り組まれている ○ STEAMLabの積極的活用は不十分 ○ 基礎力診断テストの分析・活用方法について職員研修会を実施し、職員で共通理解を深めた	C	○ 公開授業等を通して、授業をより改善するための意見交換を行う ○ 引き続き教科会等において、ICT活用例を共有し、積極的に実践していく ○ STEAM教育の職員研修会等を開催し、教科横断的に取り組んでいけるような体制づくりを進める ○ 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする	
		②	主体的な学習態度と実践力の育成	○ 授業の規律を随時周知している。「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合は92％である ○ 知的好奇心を刺激する授業づくりに努めている。「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合は87％である ○ 面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認している。R6.11月自宅学習時間調査では1日平均96分である（R5:99分、R4:117分、R3：100分、R2：80分） ○ 資格・検定の案内とともに各科・各教科で合格に向けて補習指導を行っている	○ 「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が90％以上を維持している ○ 「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が85％以上を維持している ○ 11月自宅学習時間調査が1日平均100分以上 ○ 多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している	○ 「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する ○ STEAM教育を念頭においた授業研究を継続する ○ 担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める ○ 資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す	○ 予鈴着席を意識した行動がとれるよう指導を行った ○ 教室棟巡回業務を行い、盗難の防止、節電に努めたが、不十分な点もあった ○ 先端分野やSTEAM教育を意識しながら、各教科で知的好奇心を刺激する授業に努めている ○ 生徒面談を通じて学習に取り組む態度を確認し、自宅学習時間が目標の100分を上回っている(自宅学習時間調査／R5.6月:138分、R6.6月:138分、R7.6月:108分) ○ 資格・検定の案内を行い、進路意識を高めている	B	○ 適宜授業規律が守れるように指導を行い、授業に臨める環境を維持する ○ 教室巡回業務を継続する ○ これからの社会で活躍するために必要な力を意欲的に身に付けられるよう授業を継続的に工夫する ○ 面談を適宜行い、授業態度や進路意識、自宅学習や定期考査に向かう意識を家庭とも連携しながら高める ○ 日々の学習と進路意識の向上を繋げていく	
2	豊かな人間性の育成	①	互いを尊重する態度と社会性の涵養	○ 面談、各種アンケート(ハイパー・QU・いじめ・生活振り返り等)、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○ 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高め、「互いを尊重し合いながら学校生活を送っている」とする生徒の割合が90％ ○ 校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かしている	○ 悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○ 一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○ 日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている	○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○ 人権教育LHR、性に関する指導LHR、人間関係づくり研修、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める ○ 人権教育関係の研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす	○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○ 人権教育LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高めている ○ 人権教育関係研修会等の参加者は昨年度同時期より増加した（R7.9月末現在：27.1％）	C	○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかな対応を継続する ○ 保健、相談、人権関係のLHR等を通じ、互いを尊重する意識を高める指導を継続する ○ 人権教育関係研修会等に積極的に参加することを促し、その成果を様々な場面で指導に活かせるよう情報を提供する	
		②	健全な心身と社会貢献精神の育成	○ 各種安全教室、朝の交通指導、5S・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が96.8％ ○ 9つの部活動・同好会の生徒が中国・全国大会へ出場している ○ 年2回テクノボランティアを実施。桜ヶ丘グリーンゾーン活動へも参加している ○ 2019年度比で1月末で可燃ゴミ排出量19.4％減、電力使用量3.5％増となっている	○ 「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90％以上を維持している ○ 多くの生徒が部活動に熱心に取り組み、大会等で活躍している ○ 社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○ 環境改善の意識が高まり、可燃ゴミ量1人当たり排出量を2023年比1％減となっている ○ 電力の使用について考えることができています ○ 部室の5Sに取り組めている	○ 各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5S・あさひについて積極的に指導する ○ ホームページやInstagramを通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し意欲を促す ○ 様々な機会を通して社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける(クロームブック活用) ○ 可燃ゴミ排出量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う ○ 目標の電力使用量削減は維持管理項目として情報公開を行う ○ 月に一度は部室の5Sを徹底するよう、部員への啓発を行う	○ 各種安全教室は計画通り開催できている。朝の交通指導を行い、交通安全指導を含め、「5S」「あさひ」の指導に努め、効果を発揮している ○ ホームページを通じて部活動の成績を積極的に発信している ○ ボランティア活動として、鳥工グリーン活動へ参加した ○ 環境標語ポスターの制作を行った ○ 電力使用量は6月末で2024年比+0.8％となっている。4月末では+2.2％で削減の呼びかけをSHRで行った ○ 部室の5S点検を月末に行いある程度5Sが保たれている	C	○ 薬物乱用防止教室を予定通り開催する。また、朝の交通指導を継続し、「5S」「あさひ」についても積極的に指導する ○ 引き続き部活動の情報発信に努める ○ ボランティア活動等を通して、地域貢献に努める ○ TEASの取組みについて、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う ○ TEAS講演会を実施する ○ 引き続き5Sを徹底するよう、部員への啓発を行う	
3	キャリア教育の充実と進路実現	①	専門的な知識・技術の習得	○ 企業見学は3学年とも実施している。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で、インターンシップは第2学年で実施している ○ 鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、 ○ 一人一資格取得割合・検定合格割合は全体88.3％（3年95.6％、2年81.0％、1年85.7％） ○ 第2期のスーパー工業士に4名の生徒が認定されている	○ 専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○ 学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○ 年間の一人一資格取得割合・検定合格割合が60％以上、かつ3年間で一人一資格取得割合・検定合格割合が90％程度を維持している ○ 第3期のスーパー工業士に応募した生徒が、全員認定される。第4期生について、全ての科から認定者を輩出する	○ 企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○ 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○ 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う ○ スーパー工業士の趣旨を説明し、第4期については全ての科から応募を募り、認定に向けて指導する	○ インターンシップ、鳥工版デュアルシステム等を実施できた（9月末現在） ○ 中学生体験入学を予定どおり実施し386人の中学生、保護者が参加した ○ 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行い、多くの生徒が挑戦した。また、高校生ものづくりコンテスト中国地区大会（溶接部門）に2名出場した ○ スーパー工業士第3期生に10人の生徒が認定された。また、スーパー工業士第4期生に6人の生徒が応募した	C	○ 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、課題研究発表会等は今後実施予定 ○ 次年度に向けて人数調整等の課題を検討していく ○ 今後も様々な資格検定の奨励、案内を進める ○ 今後も広く募集を呼びかけていく	
		②	勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	○ 校内外と連携した進路指導・行事を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89％ ○ 就職一次試験の合格率が97％、進学で第1希望の学校の合格率が60％ ○ 個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の ○ ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策等が充実しつつある	○ 各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が85％以上を維持している ○ 就職一次試験の合格率が95％以上を維持し、進学では推薦制度等を活用し第1希望の学校の合格率が70％以上 ○ 「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が75％以上 ○ ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている	○ 各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○ 基礎学力の定着、SPI・面接・小論文等、入試等、個々の進路目標達成に向けた学力の向上 ○ 進路行事や各種情報を生徒・保護者に周知し、進路相談に対して丁寧に対応する ○ ICT機器を活用し、適切な進路情報提供、業務の効率化を推進する	○ 各事業所、外部機関、校内各分掌と調整・情報共有して各進路行事を予定通り実施している ○ 全教職員協力のもと面接指導を行い、就職試験に向かわせることができた ○ 個々の進路希望状況に応じた、資料提供、進路相談等、丁寧に対応した ○ ICT機器の活用として、各種進路行事、説明会等の情報提供や求人票の閲覧、履歴書の作成などの環境を整備し予定どおり対応した	C	○ 各学年の進路希望状況、実態に応じてより効果的な内容となるよう、関係機関と連携する ○ 引き続き、全ての生徒の進路決定に向けて取り組む ○ 充実した情報発信に努めるとともに、生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応する ○ 引き続き、ICT機器を活用した各種進路指導の充実、業務の効率化に取り組む	
		③	地域や産業界との連携強化	○ 分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が87％ ○ PTAだよりや玄関内大型モニターで本校の特色等をPRしている。「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が81％	○ 地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が85％以上を維持 ○ 「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80％以上を維持。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○ 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ ホームページおよびInstagramの充実		○ 10月に分野別進路ガイダンス(1・2年対象)を実施した ○ 出前授業や中学生体験入学を実施し、反応は良好であった。また、ホームページをより充実させるため専門家の力を借り、生徒と意見交換しながらの発信に努めている	B	○ 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を行う ○ 学校の特色や様子を、広く多くの人に閲覧してもらうことが出来るようホームページのリニューアルを進めるとともに、SNS等での情報発信についても引き続き検討していく
4	業務改善の取組	①	5SとQCストーリーの実践	○ ネットワークフォルダの電子ファイルの整頓や、業務マニュアルの整備を推進している ○ 教職員の各月時間外業務時間の確認と、負担軽減にむけて業務分担の平均化を進めている	○ 分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化されて、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる ○ 時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じての時間外業務は、前年度より減少している	○ 電子ファイルの整理・整頓や担当による業務マニュアルの作成・改善につとめ、一層の業務効率化を行う ○ 勤怠管理システムへの入力をおとして、時間外業務削減への意識づけを一層進める	○ 電子ファイルの整頓や業務マニュアルの整備は継続され、業務効率化に向けて整理されつつある ○ 勤怠管理システムの定期的な入力を促し、教職員の各月時間外業務時間の本人確認と時間外業務削減の助言を進めている	C	○ 引き続き電子ファイルの整理と整頓や担当者の明確化を進め、業務の効率化を目指す ○ 勤怠管理システムへの入力を通して、時間外業務削減への意識づけを一層進める ○ 引き続き、部活動実施計画段階で時間外業務の削減につながるよう調整を進める ○ AI採点の活用率向上に加え、通常業務へのAI活用を検討し業務効率化の方法を検討する	

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び　5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰　あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く　テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム　QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順